

セカンドアルバム

介護補助金で離職ゼロへ

独自の福利厚生制度

横須賀市を中心に神奈川県・東京都内でデイサービス事業を展開する「セカンドアルバム」では、職員の声を受けて独自に創設した福利厚生制度「家族介護補助金制度」で、「介護離職者」ゼロをめざしている。

介護離職とは、家族の介護に専念するために仕事を辞めること。年間約10万人（総務省統計）が



柴崎さんの説明をする制度

離職しており、その多くが「仕事との両立が難しい」「24時間介護ができるのは自分しかない」などの理由だという。

家族との時間が増えた一方で、問題となるのが金銭面の不安。退職で収入源が絶たれた上に、介護サービス費用の捻出による支出が増大し、「心身だけでなく経済的負担ものしかかるのが現状」と介護事業部部長の柴崎さんは説明する。

仕事との両立実現

介護離職は介護業界も例外ではない。同社は20年以上の介護経験を持つスタッフの声をもとに、

能力と勤務意欲を持った職員の不本意な離職を避けようと、「家族介護補助金制度」を2022年からスタートさせた。

補助内容は、同社系列施設で家族（被介護者）が介護サービスを利用した際の負担額を勤務する職員（介護者）に手当として支給するというもの。経済的負担を和らげるだけでなく、職場の理解や自社の介護サービスを受けることが安心に繋がり、仕事と介護の両立を実現している。

他にも柴崎さんは「親が共働きで祖父母の在宅介護を担う子どもや若者『ヤングケアラー』を間接的に支援し、金銭面の負担軽減にも寄与できる」と話している。

詳細は同社☎03・5846・2500